

湯島聖堂漢文檢定

寺子屋編 論語

初級



子曰わく、

巧言令色、鮮なし仁。

子曰、巧言令色、鮮矣仁。

(学而篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「口先でうまく言い、人に気に入られようとわざとらしい態度をとる。そんな人にはまごころがないね。」

*この言葉から、おせじを言ったり相手に気に入られようとする態度をすることを「巧言令色」といいます。

語句の解説

○「子」は「し」と読み、「先生」の意味。

*『論語』では、孔子(孔丘)が先生なので、「子曰わく」ではじまる言葉は、すべて孔子の述べた言葉です。

○「曰」は、「いわく」と読み、ここでは「おっしゃる(言う)」の意味。

○「巧言」は、「こうげん」と読み、「口先でうまく言う」ことをいう。

○「令色」は、「れいしよく」と読み、「人に気に入られようと、わざとらしい顔つき・わざとらしい態度をとる」ことをいう。

○「鮮」は、「すくなし」と読み、「ほとんどない」という意味。

○「仁」は、「じん」と読み、「まごころ・他の人を思いやり大切にすること」という意味。

子曰わく、

弟子、入りては則ち孝、出でては則ち弟。

子曰、弟子、入則孝、出則弟。

(学而篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「若い人は、家の中では、親を大切に、家の外では、目上の人に、素直にしたがおう。」

語句の解説

○「弟子」は「ていし」と読み、ここでは「若い人」の意味。

*『論語』の中では、門人の意味で使われることが多い。

○「孝」は、「こう」と読み、「子どもが親を大切にすること」をいう。

○「弟」は、「てい」と読み、「目上の人に素直にしたがう」ことをいう。

3

子曰わく、

吾十有五にして学に志す。

子曰、吾十有而志五于学。

(為政篇)

文章の意味

孔先生がおつしやいました。

「わたしは、十五歳でいっしょうけんめい勉強して、学問を一生の仕事にしようとい心にきめた。」

* 『論語』は「学にはじまり、学に終わる」と言われるほど、孔先生は「学ぶことの大切さ」を言っています。

語句の解説

○ 「志」は「こころざす」と読み、「いっしょうけんめい勉強しようとい心に決める」こと。

○ 「十有五」は、「じゅうゆうご」と読み、「十とさらに五がある」ということで、「十五歳」という意味

○ 「学」は「がく」と読み、「学問」という意味。

4

子曰わく、

故きを温めて新しきを知らば、

以て師と為るべし。

子曰、温故而知新、可以為師矣。

(為政篇)

文章の意味

孔先生がおつしやいました。

「昔のことや昔の人の知恵の中から新しいことを見つけることができれば、人の先生になれるよ。」

語句の解説

○ 「温故」は「ふるきをあたためて」と読み、「古いことを理解する」という意味。

○ 「知新」は、「あたらしきをしる」と読み、「新しい意味を見つける」という意味。

○ 「為師」は、「しとなる」と読み、「先生になる」という意味。

子曰わく、

義を見て為さざるは、勇無きなり。

子曰、見義不為、無勇也。

(為政篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「人としてしなければならぬことと知りながら、これをしようとならないのは、本当の勇気がないものだ。」

語句の解説

○「義」は「ぎ」と読み、「人としてしなければならぬこと」という意味。正義。

○「勇」は「ゆう」と読み、「人として持たなければならぬ気力」という意味。勇気。

子曰わく、

朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり。

子曰、朝聞道、夕死可矣。

(里仁篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「朝、ものごとの真理がわかったら、その夕がたに、死んでもかまわないのだ。」

語句の解説

○「朝」は「あした」と読み、「朝」という意味。

○「道」は「みち」と読み、「ものごとの真理」という意味。

子曰わく、

之を知る者は、之を好む者に如かず。

之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。

子曰、知之者、不如好之者。好之者、不如樂之者。

(雍也篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「ものごとを知っている人は、それが好きな人にはおよばない。ものごとが好きな人は、それを楽しむ人にはおよばない。」

語句の解説

○「不如」は「しかず」と読み、「およばない」という意味。

子曰わく、

憤せずんば啓せず。悱せずんば発せず。

子曰、不憤不啓。不悱不発。

(述而篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「自分から進んで学ぼうとしてもうまくいかず」悩み苦しむ、いらいらするぐらいにならないと、私は指導しないのだ。(言いたくても)それをうまく言い表せないで、こまるぐらいにならないと、私は教えみちびかないのだよ。」

*自分から進んで学ぼうとする熱心さが大切だ、と言っています。

語句の解説

○「不憤」は「ふんせず」と読む。「憤」は「疑問を持ち、悩み、苦しんで心がいらいらする」ようすをいう。

○「不啓」は「けいせず」と読む。「啓」は「ひらきみちびく」、「啓せず」は「指導しない」という意味。

○「不悱」は「ひせず」と読む。「悱」は「言いたくても、それを口でうまく言い表すことができず、口をもぐもぐさせる」ようすをいう。

○「不発」は、「はつせず」と読む。「発」は「発きみちびく」の意味、「発せず」は「教え導かない」という意味。

子曰わく、

三人行えば、必ず我が師有り。

子曰、三人行、必有我師焉。

(述而篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「三人でいっしょに行動すれば、その中には必ず自分の先生とするにふさわしい人がいるものだね。」

語句の解説

○「行」は「おこなう」と読み、ここでは「なにかをいっしょにやる」という意味。

○「師」は「し」と読み、「先生」という意味。ここでは、「自分の行動を良い方向に導いてくれる人」という意味。

子曰わく、

剛毅木訥、仁に近し。

子曰、剛毅木訥、近仁。

(子路篇)

文章の意味

孔先生がおっしゃいました。

「自分の意見や考えをしっかりと持っていて、むだなことを言わない。そのような人には、思いやりの心があるものだね。」

*この言葉から「しんが強く、口数が少ない」ことを「剛毅木訥」といいます。

語句の解説

○「剛毅」は「ごうき」と読み、「自分の意見や考えをしっかりと持っている」という意味。

○「木訥」は「ぼくとつ」と読み、「口数が少ない」という意味。

湯島聖堂漢文検定 テキスト

寺子屋編 論語 初級

編集 湯島聖堂漢文検定編集委員会

発行日 令和六年六月一日 初版発行

刊行 湯島聖堂漢文検定編集委員会

東京都文京区湯島一の四の二五 湯島聖堂構内

制作 朔工房

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は禁じます